

令和3年度事業報告について

昭和56年3月に習志野市高齢者事業団として設立した当センターは、昭和59年9月に社団法人習志野市シルバー人材センターとなり、平成24年4月には、現在の公益社団法人習志野市シルバー人材センターへ移行し、地域の方々や行政機関、関係機関等、数多くの方々のご支援のもと令和3年度に設立40周年を迎えることができました。本来であれば、設立40周年を記念した各種事業や式典を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の脅威がなお続いていることから、理事会で審議の上、令和4年度へと延期いたしました。

この新型コロナウイルス感染症は、依然として我々の生活面や社会全体の経済面等を低調させ、当センターにおいても、会員数や契約金額、事業運営に影響をもたらしました。

会員数では、令和4年3月末で859名となり、前年度末会員数から28名の減少となりました。新規入会者数は前年度より30名増えたことから、定例会説明会と出張入会説明会の開催数を増やし入会機会の拡大を行った取り組みは、一定の成果を挙げたところです。一方、退会者数は138名で、前年度と比較して7名減少となりましたが、会員の拡大までには至りませんでした。

事業実績では、受託事業実績で前年度比較797万9,963円の減、派遣事業実績で前年度比較851万6,627円の増、受託事業と派遣事業を合わせた実績では、53万6,664円の増で、わずかに前年度を上回りました。多様な就業ニーズに柔軟に対応するため派遣事業の活用を進めたことで、就業機会の拡大につなげることができましたが、受託事業では、4億6,430万8,000円の目標に対して、4億5,021万5,939円の実績となり、目標を達成することができませんでした。

また、安全就業の推進においては、事業計画に掲げた活動は行ったものの、事故発生件数が20件（傷害事故17件、賠償事故3件）で過去最大の発生件数となり、課題を残す結果となりました。

<参考：過去 5 年間の事故発生状況>

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
傷害事故（件）	7	9	4	6	17
賠償事故（件）	3	4	3	5	3
計（件）	10	13	7	11	20

運営体制については、設立 40 周年事業検討委員会ならびに実行委員会を立ち上げ、令和 4 年度での記念事業実施に向けた準備、企画を始めました。また、SMS（ショートメッセージサービス）の導入など事務処理の効率化も図りました。

最後に、令和 3 年度事業計画の具体的な事業実施状況について報告いたします。

1 会員の拡大

（1）入会促進・退会抑止

- ・ 各種会議、広報などを通じて、全国シルバー人材センター事業協会が策定した「第二次会員 100 万人達成計画」の共有化を図りました。
- ・ センター会議室で行う定例の入会説明会を月 3 回実施、出張入会説明会を年 5 回実施しました。令和 4 年 1 月 21 日から発令された、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置期間中の定例説明会 2 回、出張入会説明会 2 回は中止しました。
- ・ 公共施設等掲示板への会員募集用ポスターの掲示、千葉県シルバー人材センター連合会等が作成した普及啓発用ポスターの掲示、ホームページ等の活用等、集会を伴わない PR 活動を実施しました。

（2）女性会員の確保

- ・ 入会促進のため、女性限定の出張入会説明会を年 1 回、女性交流会を年 11 回開催しました。女性交流会には会員以外の方々にも参加いただき、シルバー人材センターに興味を持っていただく機会を作りました。

（3）会員の資質向上

- ・ マナー&コミュニケーション研修会を年 4 回開催しました。

（4）高齢会員の対策

- ・ 「適正・公平な就業の取扱要綱」第 8 条における就業年齢の上限の見直しを

事業部会で検討し、上限を79歳から84歳まで引き上げ、後期高齢会員の就業機会を拡大しました。

- ・ 総務部会が、サークル活動等の親睦活動の立ち上げに向け、会員を対象としたアンケートを実施し、その結果、サークル活動等の親睦活動の立ち上げが決定され、退会抑止にもつながるべく就業以外にも魅力あるセンターづくりに向け始動しました。

2 就業機会の拡大

(1) 就業機会の創出

① 就業開拓の推進

- ・ 職員、就業開拓員による事業所等訪問活動を実施しました。
- ・ 会員一人ひとりの口コミ活動を主導することは、時節を鑑み行いませんでした。
- ・ 派遣就業を積極的に推進し、請負就業では成立できなかった新たな分野の受注拡大に努めました。
- ・ 取引実績のない市内事業所等250件を対象に、PRを兼ねたアンケート調査を実施しました。
- ・ 会員状況調査を実施し、会員情報の更新を行い、就業開拓の基礎資料として活用しました。

② 普及啓発活動の推進

- ・ 公共施設への機関誌、リーフレット等の配架、市広報誌への定期掲載、市内掲示板へのポスター掲示など費用対効果の高い広報活動に絞り普及啓発活動を実施しました。
- ・ ホームページの更新頻度を高め、新しい情報の提供と情報公開に努めました。

(2) 受注体制の整備

- ・ 派遣事業の積極的な活用を図り、受注件数で8件、契約金額で851万6,627円の増となりました。
- ・ 取引実績のない市内事業所等250件を対象に、PRを兼ねたアンケート調査を実施しました。(再掲)
- ・ 会員状況調査を実施し、会員情報の更新を行い、就業開拓の基礎資料として活用しました。(再掲)

(3) 独自事業の充実

- ・ 令和 3 年 12 月末をもって講師の体調面、後任講師の不在を理由に「書道教室」が閉校となり、「海浜霊園個人墓地除草・清掃」「刃物研ぎ」の 2 事業となりました。

(4) 研修・講習等の推進

①危機管理

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、当初計画していた普通救命救急講習会は中止としました。
- ・ 市・県が推進する防災活動の情報を収集し、共有を図りました。

②技能講習会等

- ・ マナー&コミュニケーション研修会を年 4 回開催しました。(再掲)
- ・ 千葉県シルバー人材センター連合会が主催する各種講習会等への受講を推進しました。

(5) 社会貢献活動の推進

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、地域活動等への参加、活動は一切自粛しました。

3 安全・適正就業の推進

(1) 安全就業の徹底

①就業基準等の遵守

- ・ 新規入会者へ「安全就業基準」「安全就業ハンドブック」「交通ルール」を配布、安全管理委員会による巡回指導において安全就業基準の遵守を啓発しました。
- ・ 事務局だよりに、安全に関する記事(交通安全運動、自動車の安全運転)を随時掲載し啓発しました。

②巡回指導の強化

- ・ 安全管理委員会による就業先の巡回指導を年 2 回実施しました。

③安全教育及び安全意識の高揚・啓発

- ・ 安全管理、健康管理及び交通安全の啓発は、会議の中止や会議時間の短縮が求められたことで実施することができませんでした。

(2) 健康管理の推進

- ・ 事務局だよりに、健康に関する記事(定期的な健康診断の受診の啓発、熱中症

- ・ 予防) や、体力づくりに関する記事を随時掲載し啓発しました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症防止策の情報共有、対策を図りました。

(3) 適正就業の徹底

- ・ 厚生労働省、全国シルバー人材センター事業協会が策定した「シルバー人材センター適正就業ガイドライン」に基づき、受託事業から派遣事業への切り替えに着手し、発注者と協議を行いました。また、新規入会者、新規発注者に対しガイドラインに基づいた案内を実施し、適正就業の徹底について周知、推進しました。

4 運営体制の充実

(1) 理事会、委員会、部会の充実

① 理事会

- ・ 代表理事の選定、常務理事の選任、規程・規則の改正、設立 40 周年記念事業の実施について、事業計画、収支予算についてなど、センター運営に係る重要な審議を行いました。

② 専門部会

- ・ 会長、副会長、常務理事によって組織する三役会議を年 6 回開催し、各種会議、イベント等の開催に関する方針決定を行いました。
- ・ 総務部会を年 4 回開催し、会員のサークル活動等の親睦活動の立ち上げや、設立 40 周年記念事業の記念式典の企画について検討を行いました。
- ・ 事業部会を年 3 回開催し、後期高齢会員の就業のあり方、退会抑止について検討し、市内事業所等アンケート調査を実施しました。
- ・ 広報部会を年 5 回開催し、機関誌「生きがい通信」の企画、校正を行いました。

③ 安全管理委員会

- ・ 委員会の開催、就業場所への巡回指導をそれぞれ年 2 回実施しました。
- ・ 各種会議、事務局だより等で安全意識の啓発を実施しました。

④ 設立 40 周年記念式典検討委員会・実行委員会

- ・ 記念事業の実施時期について検討を行いました（検討委員会）。
- ・ 記念事業の予算、役割分担、企画等の検討を行いました（実行委員会）。

(2) 地区委員、職群班の充実

① 地区委員・地区会議

- ・ 地区委員全体会議は年 2 回の開催を予定していましたが、2 回目を新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置期間となったことから中止、また各地区会議は密を避けるため 2 回とも中止しました。

② 職群班

- ・ 班長・副班長全体会議は年 2 回の開催を予定していましたが、密を避けるため 2 回とも中止しました。

(3) 財政基盤の充実

- ・ 財政基盤の充実のため、補助金の確保、受注拡大に努めました。
- ・ 適格請求書等保存方式（インボイス制度）について、全国シルバー人材センター事業協会、千葉県シルバー人材センター連合会から提供される情報を収集し、研究、検討を始めるとともに、役員・会員へ機関誌等を通じて情報提供を行いました。

(4) 事務局の充実

- ・ SMS（ショートメッセージサービス）の導入など事務の効率化を図りました。
- ・ 社会保険労務士と提携し、専門家の知識を活用した、事務局職員の労働条件や規程の整備を行いました。